

二〇二五年度 茨城キリスト教大学一般選抜入学試験 一期

国 語

(解答は解答用紙に記入すること)

I 次の文章を読み、後の問に答えなさい。

驚くほど狭い世界

産業革命以前、<sup>注1</sup>15マイル以内の狭い範囲を生きていた当時の人びとにとっては、それが世界でした。現在、地球規模に広がるインターネットの到来以来、私たちは、地球上のどこにいる人とも関係をつくることができるようになりました。世界を広げるハードルは大きく下がりました。そうはいっても、地球上のどこに、自分と馬が合い、関係をつくることができる人がいるのかは、関係をつくることに成功する前にはわからないものです。実際、子どもたちは驚くほど狭い世界を生きています。読者のなかにも、小学生の頃は長く感じていた家と学校の間の通学路が、今歩いてみると、わずかな距離に感じた経験のある人は少なくないでしょう。人は、生まれるとすぐに母親と出会い、二人の間の関係を、この世界のすべてとして認識します。その後、一人、また一人と新たな関係をつくりながら、自分の世界を広げていきます。□ a □が、自分のなかに創造される世界を形づくっていきます。世界は常に形を変えます。この広い地球上の至るところが、たとえ、ネットワークを介してつながっているからとはいえ、子どもたちの、そして私たちの世界が地球上に広がっているわけではありません。自分の世界がどれほど広いのか、他人との比較が難しいその感覚は、本人ですら、はっきりとはわからないものです。

今、多くの子どもたちは、両親や学校の先生以外の大人と出会うことなく、小中学校、人によっては高校や大学、大学院を卒業し、社会に出るといいます。社会といっても、一つの会社組織に就職してしまうと、他の組織を知る機会は限られてしまいます。趣味のサークルや地域コミュニティ、SNSなどでも目にする勉強会やイベントなどを除いて、世界を広げる機会はそれほど多くはありません。これほどまでに情報通信技術が進歩し、インターネットを通して地球上の情報が入る現代社会であつても、私たちの世界が広がる機会は、産業革命以前とそれほど変わらないのかもしれないかもしれません。昨今、ダイバーシティ(多様性)という考え方が盛んに研究されています。世界中がつながり、多くの国々は多民族化し、世代を超えたつながり

が当たり前のように生まれる現代において、異なる価値観をもつ人びとがお互いを認め合うことの重要性が高まっています。それほどまでに多くの価値観が同居する現代社会において、私たちの世界は、相変わらず小さいままなのです。

だからこそ、今、必要なのは、新しい学問の創造であると、筆者は考えています。一人ひとりの認識できる世界は、決して大きなものではないかもしれませんが、b、<sup>注2</sup>アイザック・ニュートンのいうように、連綿と受け継がれた歴史という、社会の大きな物語を紡いできた巨人の肩の上に立つ

たうえで、自分自身の世界を顧みるとき、見晴らしの良い景色を見ることができません。それこそが、歴代の科学者が行ってきた、学問を創造するという行為です。人が、生きることそれ自体によって創造する自分自身の人生という物語を、cの上に位置づけることができれば、それは学問に昇華します。現代において、社会の一員として職を得て、賃金を手にしている人は、間違いなく誰もがプロフェッショナルであり、一人ひとりが、無二の物語を生きています。その物語が学問に昇華するとき、人類の歴史は、また一歩、大きく前進するはずなのです。

d、一度、母校の小学校や中学校で、自分がどんな仕事をしていて、それが社会にとってどのような意味をもつかを語ってみてください。小中学生を前に話すとなると、あなたの仕事について、客観的に整理する必要性に迫られます。そうすると、あなた自身が活躍してきた世界がどのようなものであり、行ってきたことが社会にとってどのような意味をもつのか、そして、それを可能にしたのは、あなたがどのような巨人の肩の上に立ってきたのかを顧みることができません。それは、あなたが描いてきた、あなた自身の物語です。それを語ったとき、好奇心旺盛な子どもたちのなかから、目を輝かせ、どうすればあなたのようにになれるかを知りたがる人が現れるかもしれません。そうでなくても、話を聞いた子どもたちの世界は確実に広がります。そうした子どもたちとの関わりによって、あなた自身の世界もまた、広がっていきます。そのとき、あなたがこれまで意識していなかった過去の巨人に目を向け、彼らの創造してきた物語をたどれば、眼前には、さらに見晴らしの良い景色が広がっていきます。それこそが、学問を創造するということです。あなた自身の物語が学問に昇華されたとき、それは書物に残され、やがてはさらに多くの人の世界を広げることにつながります。変化の激しい現代社会だからこそ、人びとを次の時代に導く学問の創造が必要です。そしてそれは、あとして活躍する私たちにできることであり、求められていることです。

#### これからの学問のあり方

意外に感じられるかもしれませんが、学問と職業とは密接な関係にあります。ここでの学問とは、自分の力でお金を得るいとしての精神に近いものといつてよいかもしれません。

筆者の専門とする学問は、コンピュータの仕組みを研究するコンピュータ科学、情報について研究する情報科学、そして、AIを含む社会の問題に数学的視点から挑む数理科学などと呼ばれます。これらの分野の研究には、社会についての理解が欠かせません。これらの分野は、今、(自分を含む)社会の人びとは、どのような状況にあり、何に悩み、どのような未来を切望しているのか、といった、社会に関わるさまざまな問いを知らずして挑める学問ではありません。研究室にこもって実験を行うばかりではなく、実際の社会に出て、今起こっていることを肌で感じ、多くの人と意見交換を行うなかで、社会に生じている諸問題を体感したうえで、なぜそのような問題が生じているのかを e に分析していく姿勢が何よりも重要です。「社会」といつても、一括りにできるものではありません。社会は私たち一人ひとりの「人間」によってつくられています。その場所にいる「人間」を知ることなしに、語ることはできません。しかしながら、残念なことに、社会のなかの「人間」を理解しようとする科学者はほとんどいないのではないかと感じられます。現代社会に蔓延する「何かがおかしい」という f に、多くの科学者は、答えようとしていないのではないかと、感じられるのです。

たとえば「教育現場で問題が起きている」というニュースがあったとします。そのニュースを分析するにあたっては、「不登校児が1校あたり〇〇名いる」「教員の離職率は〇〇パーセント」など、数値によって問題を把握しようとする方法を、科学者は好んで用います。確かに、数値による問題の把握は欠くことのできないものです。誰か一人の証言だけでは、それが現状を正確に表しているのか、はたまた偏見によるものなのかを切り分けることはできません。しかし、数値で表されたものであれば、それが「何校のデータを分析した結果なのか」「いつ、どのように収集したデータなのか」といった、データがどれほど正確に現状を反映しているものであるかの検証ができます。それが正確なものであればあるほど、現状の把握を的確に行うことができ、実際に起きている問題の確な解決につながります。数値による把握を行わなければ、誤解や偏見によって誤った対処をすることになり、事態がより悪化してしまいかねません。それが企業であれば、経営悪化につながり、倒産などの悲劇につながっていくこともあるのです。

このような理由から、科学者たちは、社会で起きているさまざまな現象を把握するために数値データの分析を重視しています。ここにも大きな落とし穴があります。データは、ただ収集すればよいというものではありません。どのようなデータを収集するかによって、結果は大きく変化してしまうのです。たとえば社会で問題が起きている、それを把握できるかどうかは、その問題に対応するデータを収集しているかどうかにかかっています。そして、データをせっかく収集したとしても、問題に注目して分析しなければ、数値の山に埋もれてしまって、何も見出すことはできません。たとえば、よく耳にする「若者の〇〇離れ」などといった表現があります。「20代の海外旅行者は、20年前に比べて200万人も減少している」などといった数値データを見ると、「若者が海外から離れ、内向き志向になっている」と結論づけてしまいがちです。しかし「問題は別のところにあるのではないか」と考えることができれば、若者だけでなく、全年齢層のデータに注目することができ、「若者の海外旅行者が減っているのは、単に若者全体の数が減っ

ているだけであつて、若者の数の割合を見ると、むしろ、海外志向の若者が増えている」という斬新な知見を得ることもできるのです。このように、どのようなデータを収集して分析すればよいか、どのような問題に注目すればよいかは、机の上でデータを眺めているだけでは決して判断することができません。今、この社会で起きていることを肌で感じることなしには、問題を見つけないことすらできないのです。

(松田雄馬『人工知能に未来を託せますか?』より なお本文に適宜省略・改変を加えた)

注1 15マイル……………約24キロメートル。陸上の1マイルは約1.6キロメートル。

注2 アイザック・ニュートン……………一六四二年生まれ、一七二七年没。イギリスの数学者。物理学者。天文学者。

問一 空欄   に入れるのに最もふさわしい言葉を、それぞれア～エから選び、記号で答えなさい。

- |   |   |       |   |       |   |        |   |                         |
|---|---|-------|---|-------|---|--------|---|-------------------------|
| a | ア | 科学の進歩 | イ | 心身の発達 | ウ | 人との出会い | エ | 家族の絆 <small>きずな</small> |
| b | ア | あるいは  | イ | したがって | ウ | しかしながら | エ | なぜなら                    |
| c | ア | 科学    | イ | 人生    | ウ | 社会     | エ | 歴史                      |
| d | ア | たとえば  | イ | さらに   | ウ | むしろ    | エ | とりわけ                    |
| e | ア | 画一的   | イ | 多角的   | ウ | 義務的    | エ | 機械的                     |
| f | ア | 一体感   | イ | 不信感   | ウ | 無力感    | エ | 違和感                     |

問二 空欄    に共通して入れるのに最もふさわしい言葉を、本文中から九字で抜き出しなさい。

問三 傍線部X「確かに、数値による問題の把握は欠くことのできないものです」について、筆者がこのように言っているのはなぜか。その理由として最もふさわしいものをア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 現代社会の問題は複雑で、数値データがないと現状を把握できないから。
- イ 教育に関する問題は社会問題の中でも対象となる人間の数が特に多いから。
- ウ 数値データを分析することは現状を正確に把握することにつながるから。
- エ 誤解や偏見のもととなる人間の証言などは違って数値は常に正確だから。

問四 傍線部Y「大きな落とし穴」について、この「落とし穴」にはまらないようにするにはどのようなことをすればいいのか。その内容を六十字以内で答えなさい（句読点なども字数に含みます）。

問五 次の1～6の文について、本文の内容にふさわしいものには○を、そうでないものには×をつけなさい。

- 1 インターネットが普及したことによって私たちは自分の世界を広げ、多様な価値観を認め合って生きようになった。
- 2 一人ひとりの人間が認識できる世界は大きくないが、「新しい学問」はそうした世界を広げていく可能性がある。
- 3 自分自身の「物語」を学問に昇華させるには、その物語を他者に語ったり書物に残したりすることが不可欠である。
- 4 科学者が社会問題に目を向けようとしないうちは、現代社会の問題は科学では解決できないと考えているためである。
- 5 最新のデータ分析によると、かつては内向き志向の若者が多かったが、近年は海外志向の若者が増えてきている。
- 6 これからの学問では、「数値データ」ではなく、社会のなかで生きる「人間」のあり方を分析することが重要である。

## Ⅱ 次の各問に答えなさい。

問一 次の1～5の傍線部のカタカナを漢字で書きなさい。

- 1 科学的な知識をチクセキする。
- 2 与えられた任務をスイコウする。
- 3 機械を二十四時間カドウさせる。
- 4 被害者にバイショウキンを支払う。
- 5 努力をしている友人をハゲます。

問二 次の1～5の傍線部の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- 1 この森は野鳥のウミ地となっている。
- 2 大自然を目にしてオソの念を抱く。
- 3 長年にわたって準備してきた計画がクワする。
- 4 保険を解約してヘン金を受け取る。
- 5 海外生活で物事の多面的な見方がウわられた。

問三 次の1～5の四字熟語の□に当てはまる漢字を書きなさい。

- 1 大□晩成
- 2 □腹絶倒
- 3 奇想□外
- 4 □紀肅正
- 5 縦横無□

問四 次の1～5の語句の表す意味として最もふさわしいものを、それぞれア～エから選び、記号で答えなさい。

1 歴然

- ア 古ぼけていること
- イ ありふれていること
- ウ はつきりしていること
- エ めったにないこと

2 敢行

- ア 物事を慎重に行うこと
- イ 最後までやり通すこと
- ウ 思い切って実行すること
- エ 無駄な努力をすること

3 諧謔かいぎやく

- ア ずるがしこいこと
- イ おどけていて滑稽なこと
- ウ 明るく朗らかなこと
- エ いい加減で無責任なこと

4 常套句じょうたうく

- ア 日常生活の中でよく使われている言葉
- イ さまざまな場面で使うことのできる言葉
- ウ 現在はほとんど使われることのない言葉
- エ 同じような場合に決まって使われる言葉

5 糊塗こと

- ア 一時しのぎにその場を取り繕うこと
- イ はつきりした根拠もなしに断定すること
- ウ 自分の意見や考えを他人に押し付けること
- エ 一つのことについていつまでもこだわり続けること

問五 次の1～5の単語の類義語をそれぞれ後の【語群】から選び、記号で答えなさい。

1 入念

2 寄与

3 往時

4 蹉跌さてつ

5 矜持きやうじ

【語群】

オ	ア
自負	過去
カ	イ
介入	欺瞞 <small>ぎまん</small>
キ	ウ
貢献	昨今
ク	エ
失敗	周到

